

■北条時房 武将。執権政治の確立に努め、義時・政子没後は、泰時を支えた。
ほうじょうときふさ
法然浄土宗始1175= 生。父は北条時政。政子・義時の弟。

源氏一斉蜂起1180= 5歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1184= 9歳：
平氏滅亡・ ・ 1185=10歳：

奥州藤原滅亡1189=14歳：元服。

臨濟宗始・ ・ 1191=16歳：源頼朝の奥州藤原泰衡追討に従う。
鎌倉幕府始・ 1192=17歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1193=18歳：

源頼朝没・ ・ 1199=24歳：頼朝が死去。次の将軍頼家は蹴鞠などに没頭したといわれるが、時房もこの年から、

・ ・ ・ ・ ・ 1202=27歳：
執権政治始・ 1203=28歳：まで大輔房源性・肥田宗直らとたびたび相手をしている。

新古今集・ ・ 1205=30歳：大殿権助に任じられ、臨時除目により従五位下遠江守に叙任された。駿河守に遷任、

専修念仏禁止1207=32歳：県召除目により武蔵守に任ぜられた。

・ ・ ・ ・ ・ 1211=36歳：

北条霸権確立1213=38歳：信濃国住人泉親衡が頼家の遺子千手の将軍擁立を企て、これに和田氏の参画が露見し、和田義盛が北条氏打倒の兵を挙げた。この*和田義盛の乱で、義盛軍が稲村ヶ崎から由比ヶ浜に進軍するにあたって、時房は泰時とともに若宮大路で奮戦し3日間で和田一族を討滅した。この功で時房は上総飯富荘を与えられている。

・ ・ ・ ・ ・ 1217=42歳：相模守に任じられ、
・ ・ ・ ・ ・ 1218=43歳：臨時除目により従五位下に叙された。これより先、将軍実朝はすでに政治の実権を奪われ、鎌倉武士の信頼を失っていたので、義時は実朝に子のないことを理由に皇族将軍の実現をはかり、この交渉のために政子自身が熊野詣でと称して上洛し、時房もこれに従った。皇族将軍の東下は一度は約束されたが、鎌倉内部の不安定をみた院側は地頭改補を要求して幕府態度の強弱を試みた。義時は頼朝以来の幕府の基本方針に沿って拒否し、その答使として時房は一千騎の兵を従えて上洛した。この皇族将軍は結局、双方対立のまま実現せず、左大臣藤原道家の子三寅の東下で決着した。

愚管抄・ ・ ・ 1220=45歳：
承久の乱・ ・ 1221=46歳：この公武対立が表面化して*承久の乱が勃発、時房は泰時とともに東海道を西上し、近江国勢多で合戦に及び、入洛、乱後の処理のために、六波羅南方として京都に駐留した。

・ ・ ・ ・ ・ 1222=47歳：この合戦の恩賞として、伊勢守護職を与えられている。
親鸞真宗始・ 1224=49歳：*義時が死去すると、鎌倉に戻り、執権泰時のもとで連署となり泰時を補佐した。
北条政子没・ 1225=50歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1229=54歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1231=56歳：正五位下に、
御成敗式目・ 1232=57歳：

金滅亡・ ・ ・ 1234=59歳：従四位下に叙され、

・ ・ ・ ・ ・ 1236=61歳：修理権大夫を兼任し、
・ ・ ・ ・ ・ 1237=62歳：従四位上に叙された。
鎌倉大仏始・ 1238=63歳：将軍頼経に従って泰時らと上洛し、臨時除目により正四位下に叙された。

・ ・ ・ ・ ・ 1240=65歳：没した。